

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上	写真・井上、後藤
山行番	NO. 2010	
日時	2023年3月4日(土) 晴れ	
山域	八ヶ岳・北横岳(2480m)	
コース	長泉 5:00－東名富士 IC 5:20－駐車場「女の神氷水」 発 8:19－竜源橋駐車場 8:35－天祥寺原分岐 10:42－亀甲池 11:24－北横岳(北峰) 2480m 12:48－(南峰) 三角点 2472.5m 12:56－下山開始 13:08－亀甲池 13:48－竜源橋駐車場 15:15－駐車場「女の神氷水」 着 15:20(分隊 14:50 着)－16:00 まで休憩－長泉 19:00	
標高差	女の神氷水 1625m～北横岳(北峰) 2480m＝855m	
藪漕度	上り・下り なし	
難易度	非常に困難 困難 しやや困難 <u>普通</u> やや易しい 易しい	
等高線の通りの厳しい登り		
参加者	後藤、加藤、星(3名・標高約 2200m まで)、井上＝4名	

長泉からの出発は後藤さん、星さんと私の3人で、東名高速富士 IC の駐車場で加藤さんをピックアップ。道中で見た八ヶ岳の雪は少なかった。

「女の神氷水」前の駐車場には車は1台も停まっていなかった。駐車場までの道路は脇に雪があるが走行上問題はない。スタートからアイゼンをつけ、道路脇の雪の上を歩いた。少し下ったところの水道設備から登り口と思って行ってみたが間違いで、反対に少し上ったところの竜源橋の駐車場が登り口と分かった。



登山口



滝ノ湯川

竜源橋の駐車場には4～5台の車が駐車しており、これ以上の駐車はできなかつたようだ。下の駐車場を選んだのは正解だった。雪面にはスキーの跡もあった。天祥寺原までは300mほど登る。吉祥寺原は平らで樹木も少なく踏まれていない雪面がきれい。

ずぼずぼと足が雪にはまるので星さん以外のワカンを持っている3人がワカンをつけた。後は、体の大きい順に歩いて雪を踏み固め、後ろの人が雪にはまらないようにするため、



天祥寺平



ワカン



天祥寺原（平）

私が先頭となった。ワカンを分岐で右に折れ、南の亀甲池を目指す。目の前ののっぺりとした尾根を右に巻いて沢すじにでる。

やがて、後藤さんから先に行くように言われたので、後続を待たないで進むことになった。雪面には、スノーシューとワカンのトレースがあり先行は2人のようだ。亀甲池でスノーシューの足跡が北横岳に向かい、ワカンの足跡は双子池に向かった。後で、スノーシューの人が下ってきたときに聞くと、ワカンの人は、登り口近くで私たちを抜いていった単独の女性で双子池ヒュッテに向かったとのこと。



亀甲池に向かう（後ろは、蓼科山）



亀甲池



西尾さん

11:24。亀甲池は標高 2040m で北横岳まで 440m 残っている。夏山なら 1 時間だろう。雪にトレースがついていれば頑張れば 1 時間でも可能ではないか。12 時半を目標に取り掛かった。北横岳は私自身全く初めてで、せっかく遠くまで来たのだから、できれば登頂したい。地形図の等高線の込み具合からきつい登りであることは予想していたが、予想以上だった。すぐにワカンを外し、アイゼンで登る。

男性 2 人が下ってきた。ロープウェーで北横岳に登り、車が停めてある竜源橋に行くと

のこと。その後、同じコースで先行していたスノーシューの男性が下りてきた。スノーシューでは登れないと判断し、やめたようだ。聞くと74歳（松本・西尾さん）とのこと。

アイゼンの先端の爪が刺さればどんどん登れるが、先行者はスノーシューの1人だけで雪が固まっておらず、足を上げても元の高さに戻ってくる。



撮影・井上（後ろに、赤岳が見える）

木の枝の上に雪の道があるので、足場はふわふわとし踏ん張れない。足を置ける場所を手（足）さぐりで探す、硬い場所がなく腰まで雪に埋まる。手をつかむところもなく、先に進む方法がなくなった。今日はここが限界で、引き返す潮時だと思った。

でも、もうちょっと頑張ってみようと思い、悪あがきを開始した。上げて戻ってくる足で、とにかく足元の雪をかけ分けて少しでも踏み固める。両拳を同時に雪に突き刺し、四肢に体重を分散してゆっくり体を持ち上げた。クリアした。なんという達成感だろうか。

目の前の小さな壁は、がんばれば越えられるのだ。腕時計の高度計を見ては、あと100mだけ、あと100mだけと自分を励ました。これを繰り返してゆけば登頂できるかもしれない。しかし、このような壁がもう一回現れたが、さっきも乗り越えられたのだから、もうちょっとだけ頑張ってみようと思い挑戦すると、また壁を越えることができた。この2回の体験はすばらしい体験となった。

また4人の男性が下りてきた。少しでも多くの方が雪を踏んでくれると、帰りの下りが歩きやすくなるのでありがたい。でも、全員スノーシューかワカンだったので、あまり踏

み固められておらず、下りでも何度も下半身が腰まで雪に埋まり、脱出に苦労させられた。その方たちから、厳しいところは残っているが、森林限界まであと少しですよと励まされた。すごい汗ですねといわれた。

上半身は長袖Tシャツのみで、サングラスは汗まみれで前が見えない。

森林限界を超えると、尾根にでて、圧雪された尾根を頂上まで歩く。頂上には何十人という人がいた。私一人、シャツ一枚で汗だくで息もハアハアといって、とても場違いな感じがした。



撮影・井上（後ろは、蓼科山）

すぐ先に三角点がある南峰が見えた。こんな苦労する山にはもう来ないかもしれないので、行っておくことにした。南峰では、赤岳を中心とした八ヶ岳の峰々が見えるが、遠いため、最近、登った編笠岳から見た景色の方が迫力であった。青空に恵まれ全周囲の景色が見えるが、今日は景色より登り切った感動がすべてだった。

ここで時刻は1時になり、写真を撮り、脚はパンパンだったので念のためアミノ酸を水で流し込んですぐに下山開始した。すると、後藤さんからショートメールで「下山します」の連絡がきて、自分も「今から下山する」とメールを打った。亀甲池までの下りのコースタイムは1時間だが40分で下りた。ちなみに亀甲池から北横岳までの登りのコースタイムは1時間20分で、私は1時間24分だった。

亀甲池では、登りの最後に会って下っていた男性4人に追いついた。そこから双子池ヒ

ユッテに向かうそうだ。しばらくすると、右側の雪に「レイホー今から帰ります」のメッセージが書かれていた。あとで聞くとやっぱり、加藤さんと星さんが書いたそうだ。

ここからの水平移動は辛かった。食事といえるような休憩を取っていないので、ザックの重さが変わっておらず、肩が痛い。水平移動は登りに匹敵するくらい脚にもきた。グリセードで楽に下れるのではないかと期待し、アイゼンを外したが、圧雪されていないので、またずぼずぼと足が埋まる。



提供・井上



雪上ひな祭り



昼食

ワカンをつけた方が歩きやすそうだが、面倒なのでがまんして進んだ。天祥寺原の分岐についてもまだ水平移動は長く、つらい歩行が続いた。

天祥寺原を抜けて樹林帯に入り、ようやく、標高を下げる下りが始まった。頂上から竜源橋までの下山のコースタイムは2時間40分のところを2時間7分で下った。竜源橋の駐車場にはスキーを片付けている人がいた。道路を歩き、女の神氷水の駐車場に到着。先に下った3名は、車の横にテーブルとイスをだして、私を待っていてくれた。

帰りの運転をするつもりだったが、疲れていることを気遣っていただき、運転は免除され、ビールを飲めるようになった。山で飲むつもりで一日中かつぎ続けた重いビールを出して飲んだ。格別に美味かった。思ってもない、貴重な体験をさせていただきました。 以上



亀甲池逍遥

